

ホノルル教育會編纂

副日本語讀本

四

もくじ

一	良子のけなげな心……………	一
二	龜……………	五
三	蜘蛛のせんぞ……………	
	(一)……………	九
	(二)……………	十
	(三)……………	十二
四	めくらおに……………	二十
五	三つの寶……………	二十三
六	自分が見えない人……………	三十二
七	こねずみのよくばり……………	三十七
八	とかげのしっぽ……………	四十五
九	大蛇たいじ……………	四十七
十	お百姓とさくらんぼ……………	五十九
十一	おみや……………	六十二
十二	人食い……………	
	(一)……………	六十四

もくじ

一

副讀四

(二).....	七十四	二十	乞食と福の神.....	百二十四
十三 学校の古時計.....	八十二	二十一	お山の大将.....	百三十二
十四 フットボール.....	八十五	二十二	山幸彦海幸彦.....	
十五 谷間の百合		(一).....		百三十四
(一).....	八十八	(二).....		百四十二
(二).....	九十五	(三).....		百五十三
十六 夕やけ.....	百三	二十三	風.....	百六十一
十七 まりと蟻.....	百四	二十四	よし子のお清書.....	百六十三
十八 狐の裁判.....	百九			
十九 子守歌.....	百二十二			

副讀四

副讀四

一 良子のけなげな心

お菊は、あるお百姓のお女中でした。夜があけると、すぐ床を出て、顔を洗う間もなく、枯草をほしたり、かたづけたりして働きます。夕方になると、もうぐたくにくたびれてしまいましたが、それでもお菊は勇氣のある娘でしたから、竹ぼうきを持って、お庭をけきはじめました。しかしすっかり其の兩腕がしびれてしまつて居ました。そのせいか、このせまい百姓家の庭が、こんなに広いとは思つたことはありませんでした。この家の小さい娘の良子は、其のとき内庭で遊ん

は成績よりも何よりも、お前のこゝろがけに感心する。そうゆう心がけでしつかり勉強して、今度はぜひひともとりかえしてごらん。」

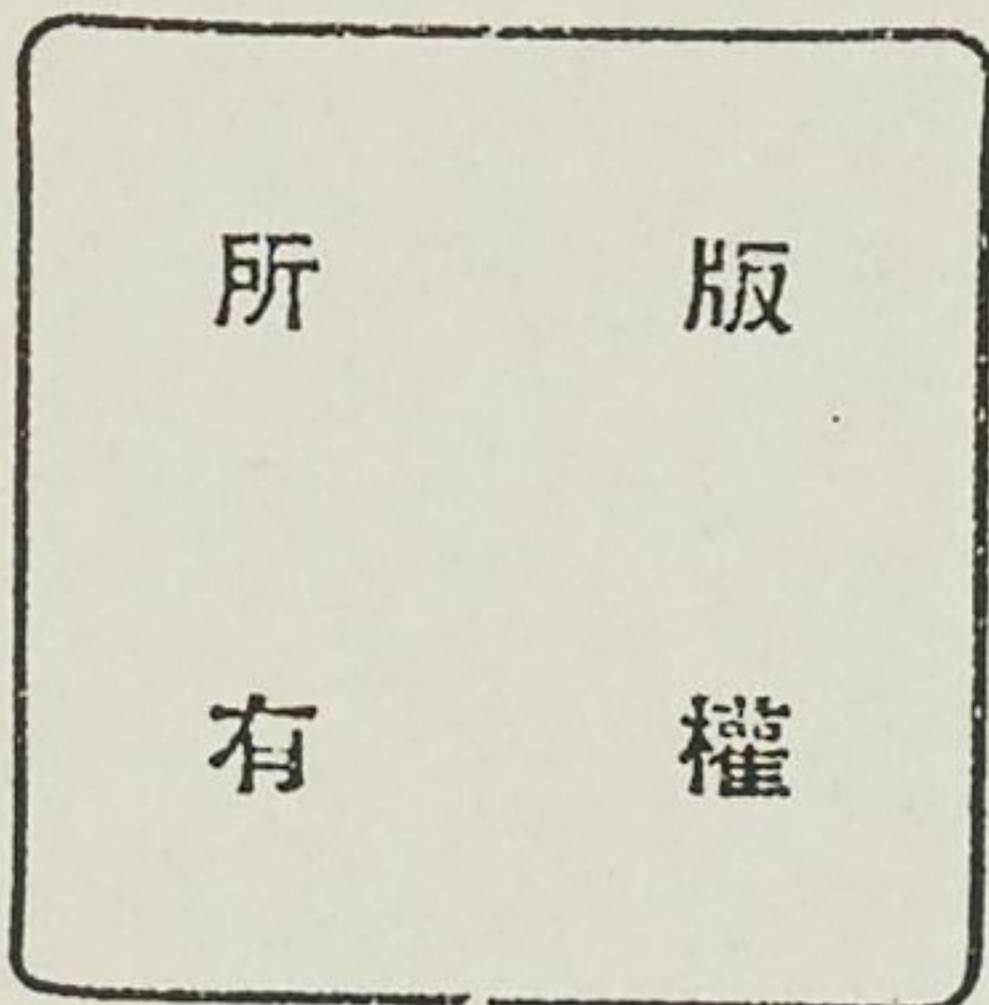
とおしえるがように、またなぐさめるがように、いい聞かせる父の面には、子を思う親のつくしみがあふれて居ます。よし子さんも亦つゝみきれない満足な顔色で、ねんごろな父のことばをつゝしみぶかく聞くのでありました。

じつに此の茶の間は、あたゝかい氣持にみたされて居ます。

おわり

副讀四

昭和五年四月十二日印刷
昭和五年四月十五日發行



Made in Japan

編纂兼發行者

ホノルル教育會

東京市京橋區銀座西七丁目一番地

印刷者

株式會社 帝國地方行政學會

電話銀座六六〇・六六一・六六二・六六三番
振替貯金口座東京一三・一六一番